

2017年度 大学コンソーシアム京都SDゼミナール募集要項

2017年3月
公益財団法人 大学コンソーシアム京都

1. はじめに

大学コンソーシアム京都では、2015年度から、加盟校を中心とする各大学・短期大学における次世代の大学運営を担うプロフェッショナル職員の育成を目的として、SDゼミナールを開催しています。

「知識基盤社会」の本格的な到来が指摘される今日、少子高齢化やグローバル化の進展など高等教育を取り巻く環境は劇的に変化し、より一層不透明さを増しています。中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」（2012年）では、予測困難な次代を切り拓く人材や学術研究への期待を掲げるなど、大学に対する社会からの期待はますます大きくなっています。また、中央教育審議会の大学分科会組織運営部会「大学のガバナンス改革の推進について（審議まとめ）」（2014年）では、学長のリーダーシップの下で戦略的に大学をマネジメントできるガバナンス体制の構築が不可欠であるとし、学長がリーダーシップを発揮していくための補佐体制強化の観点から、IRや入学者選抜、教務、学生支援、人事や財務、広報等各分野に精通した「高度専門職」の設置や、恒常的な大学職員のスキル向上のため、2017年4月1日に改正される大学設置基準において、SDが義務化されます。

このような状況を踏まえ、大学職員には大学運営に携わるプロフェッショナルとして、次代を見据えた的確な舵取り能力と、環境の変化や社会のニーズを正確に分析し、それを組織における意思決定や社会的使命である教育・研究・社会貢献に反映させる能力が求められています。

2. 研修の目的

- ① 大学職員として必要な知識を体系的に習得できるカリキュラムを提供し、今後の大学運営を担ういわゆる「プロフェッショナル」職員の育成を目指す。
- ② 5年以上の職務経験を積んだ職員を対象とし、ステップアップをめざしている職員の導入的な研修プログラムとする。
- ③ 受講生が大学の枠を越えた人的ネットワークを形成し、所属大学において、今後の大学間連携や交流のキーパーソンとなるような機会を提供する。

3. 研修の到達目標

- ① 大学職員として必要な基礎知識（高等教育制度、学生実態の把握、大学と社会との関連等）を得る。
- ② 他大学の職員と共に学び、情報交換することを通じて、自大学と異なる事例や取り組みに関する見識を深める。
- ③ 受講生間で親交を深め、大学の枠を越えた人的ネットワークを形成する。
- ④ 相互に切磋琢磨する環境の中で、職業人として自律的に学習・考察する態度を身につける。

【プロフェッショナル人材になるために必要なこと】

- ・技術的側面（専門性など）での成長
- ・管理的側面（自主性、同業者への準拠など）での成長
- ・精神的側面（貢献など）での成長

※『経験からの学習』（松尾睦、同文館出版）より

4. 実施概要

開催日時：2017年6月3日（土）～7月22日（土）13：45～16：55（90分×2コマ）※1

最終報告会（受講生公開プレゼンテーション）：9月9日（土）9：30～17：30

会場：キャンパスプラザ京都（予定）※2

※1：一部の講義については、実施時刻が変則的になる可能性があります。

各講義終了後（6月24日除く）、30分間の受講生によるリフレクション会を行います（参加は任意）。

※2：6月24日（土）は花園大学にて実施します。

5. 募集人数

20名（当財団のSD研修委員会による書類選考を行います）

6. 参加条件

SDゼミナール開始日の時点で、職務経験5年以上（その内、大学職員としての職務経験が3年以上。職位問わず）の大学職員（定員超過の場合は選考を行う）

7. 研修内容

※役職は2017年3月現在

講義概要	
第1回	6月3日（土）オリエンテーション－事務局ガイダンス－
SDゼミナールに臨む心構え－SDゼミナールの受講を愉しく意味のあるものにするために、予め考えておくこと－	
担当者：山崎 その 氏（京都外国語大学・京都外国語短期大学 総合企画室 次長）	
講義の目的・獲得目標	
本ゼミナールでは「自分だったらどうする」を常に意識しながら課題に取り組むことが求められます。みなさまとの対話を通して主体性を喚起することを目指します。	
＜獲得目標＞	
・高等教育の現状について理解する。	
・どのような考え方、スタイルでSDゼミナールに臨むのかについて、自分の言葉で説明できる。	
・研修終了後も、自発的に学び続ける自分の姿をイメージできる。	
第2回	6月10日（土）
大学の歴史と制度－大学の歴史的展開と大学改革の動向－	
担当者：江原 武一 氏（京都大学 名誉教授）	
講義の目的・獲得目標	
講義の目的は、大学の歴史的な歩みと制度的な特徴をふまえて、日本の第二次世界大戦後の大学政策や大学改革の動向と課題を理解し、所属大学の改革の取組や成果、課題を考察する手がかりを得ることです。具体的な獲得目標は次のとおりです。	
①大学の歴史的展開や日本の大学改革の動向と課題を考えるための基本的な見方や用語を理解し、活用することができる（知識）。	
②所属大学における大学改革の課題や方策を、自らの経験や知見をふまえて系統的に理解し、主体的に議論することができる（価値観・態度）。	

第3回 6月17日(土)**大学の戦略とリーダーシップー戦略を創出する組織づくりー**

担当者：吉武 博通 氏(筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授)

講義の目的・獲得目標

大学改革を教育研究の高度化や経営基盤の強化を通じて、個々の大学の社会的存在価値の向上に繋げるためには、「戦略」、それを遂行する「組織」、それを担う「人材」の3つの要素が必要である。この前提にたつて、大学における戦略の意味を問い直すとともに、戦略を遂行し、新たな戦略を創出する組織のあり方、その担い手である大学スタッフに期待される役割と育成について、多面的な視点から共に考える機会を提供する。

第4回 6月24日(土)**大学職員と“こころ”ー花園大学での実践研修ー**

担当者：法話①・坐禅：小川 太龍 氏(花園大学 国際禅学研究所 研究員)

法話②：トーマス・カーシュナー 氏(花園大学 国際禅学研究所 研究員)

講義の目的・獲得目標

本研修は花園大学で講義を行います。混迷を深める現代において、坐禅や法話を通じ自己の精神を磨く実践研修です。禅の教えとは、どこか遠い昔の絵空事ではなく、現代に生きる私たち一人一人の、今この瞬間にこそ力を発揮するものであることを本講義で紹介いたします。

第5回 7月1日(土)**大学組織の活性化ーいきいきとプロの仕事をする！ー**

担当者：瓜生原 葉子 氏(同志社大学 商学部 准教授)

講義の目的・獲得目標

能力や知識・スキルがあっても成果がなかなか上がらない人がいる一方、やる気と努力で好成績を上げる人もいます。「働く意欲」は仕事の業績に大きく影響するため、その向上は組織の永遠の課題です。

本講義では、働く意欲とその源(モチベーション)を深く理解し、他者を「動機づける力」をつけます。さらに、マネジメントとして組織のダイナミクスに影響を及ぼすことのできる実践的な能力の獲得を目指します。

第6回 7月8日(土)**大学と高大連携・高大接続ーキャリア教育の視点から、教育改革について考えるー**

担当者：荒瀬 克己 氏(大谷大学 文学部 教授)

講義の目的・獲得目標：

- ・高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的な改革の趣旨について理解を深める。
- ・他者と関わりながら主体的に生きていく若者を育てるために、どのような取り組みが求められるのかについて考察する。
- ・上記を踏まえ、高大連携・接続にどう取り組めばよいか模索する。

第7回ー1 7月15日(土)**アカデミック・プレゼンテーションープレゼンテーションの「スキル・ツール・マインド」ー**

担当者：村山 孝道 氏(京都文教大学 教務課 課長)

講義の目的・獲得目標

本講義の第一の目的は以下の3つです。

- ・「アカデミック」の意味を知る。
- ・アカデミック・プレゼンテーションのスタイルを知る。
- ・自身の研究テーマを内省する。

<獲得目標>

- ・「アカデミック」とは何かを説明できる
- ・アカデミック・プレゼンテーションのスタイルを説明できる。
- ・自身の研究テーマを他者に伝えることができる。

第7回ー2**アカデミック・ライティングーレポート作成について学ぶー**

担当者：大学コンソーシアム京都 事務局

講義の目的・獲得目標：

<目的>

レポート作成方法の基本的事柄を学ぶ。

<獲得目標>

本講義における「アカデミック・ライティング」を説明できるようになる。

レポートの作成方法を習得する。

第8回 7月22日(土)

大学と社会－地域連携の意味と大学の役割－

担当者：深尾 昌峰 氏（龍谷大学 政策学部 准教授）

講義の目的・獲得目標：

人口減少時代、超高齢化社会を迎える中で、社会が求める大学の役割、地域社会に根ざす大学のあり方が問われている。これまでの大学連携や地域連携の事例をもとに、これからの大学の役割を考え、スタッフ部門の役割と求められる能力について考える。

受講生公開プレゼンテーション 9月9日(土)

8. 研修の運営方法

- 各回のシラバスに沿った研修運営を行います。また、講師はファシリテータの役割も果たし、受講生の積極的な議論も取り入れていきます。
- 修了レポート（後述）の執筆を念頭に、第7回に「アカデミック・ライティング」の講義を行います。また、希望者には、SD 研修委員等によりレポートのアドバイスをを行います。
- 受講生には、毎回受講後に「講義アンケート」にお答えいただきます。
- 毎回の授業をビデオ撮影し、講義を欠席した受講生には後日提供いたします。
- 公開プレゼンテーションは修了レポートのテーマに基づいて行っていただきます。このため、開講当初より、具体的な個人の研修テーマ（例：アドミニストレータ育成論、教学改革論、大学組織論など）を持って、講義や演習に臨んでください。

9. 修了要件

原則として、下記の全ての条件を満たした受講生に「修了証」を授与します。

<修了要件>

- ・公開プレゼンテーションを含む講義9回のうち、6回以上の出席
- ・修了レポートの提出

※公開プレゼンテーションには極力参加すること

<修了レポート執筆要領>

文字：10.5ポイント、MS明朝

形式：「Microsoft Word」にてA4、横書き、余白（上35mm、下30mm、左右30mm）、40字×30行で設定。

分量：6ページ以上10ページ以内（図表・参考文献等を含む）

締切：2017年10月末

10. シラバスおよび教材について

受講生には、受講決定通知と同時に、シラバス（教材・参考文献リストを含む）を配布します。また、初回講義時のオリエンテーションにおいて、具体的な研修プログラムの運営方法について説明いたします。

11. 受講申込み方法等

受講申込み方法は、【A】所属の大学・短期大学（以下「大学等」）を通じてお申し込みいた

だく方法（以下、機関申込）、と【B】個人でお申し込みいただく方法（以下、個人申込）、の2種類があります。申し込みに先立って、大学等の人事・研修担当部課において、どちらか一方の申込み方法をお選びください。（1 大学等で、【A】【B】2つの方法を併用することはできません）。

	【A】機関申込	【B】個人申込
【STEP1】 お申込み	<p>所定用紙※1に必要事項を記入の上、<u>所属の大学等を通じてメール添付にてお申し込みください。</u></p> <p>注：各大学での取りまとめにあたっては、後述の締切までに集約が完了できるよう、学内集約期日の設定をお願いいたします。</p>	<p>所定用紙※1に必要事項を記入の上、メール添付にてお申し込みください。</p> <p>注：申込に際しては、所属大学が『【A】機関申込』を採用していないか、事前に人事・研修担当部課宛てに確認をお願いします。</p>
	<p>申込先：sd@consortium.or.jp 締 切：4月29日（土）（必着）</p>	
【STEP2】 選考	<p>受講申込書に基づき、書類選考を行います。</p>	
【STEP3】 受講可否のお知らせ	<p>5月中旬以降に、<u>所属大学等を通じて本人宛てに通知します。</u> その際、受講料の振込口座などをお知らせします。</p>	<p>5月中旬以降に、本人宛てに通知します。 その際、受講料の振込口座などをお知らせします。</p>
【STEP4】 受講料のお支払い	<p>所定の期日までに、当財団の指定口座にお振り込みいただきます。</p>	
【STEP5】 受講	<p>受講開始（6月3日）</p>	

※1 別添資料あるいは財団ホームページよりダウンロード（Word形式）することが可能です。

用紙は【機関申込】と【個人申込】に分かれています。

URL：<http://www.consortium.or.jp/> [トップページ→高等教育関係の方→SDゼミナール]

機関申込にあつては、受講申込書とともに、所定用紙による名簿をご提出いただきます。

その際、同一大学より複数名の応募がある場合は、名簿の該当欄に必ず優先順位をつけてお申し込みください。また、いずれの申込方法の場合も、メール送付時には、件名に「【SDゼミナール申込】（所属・氏名等）」と記載してください。折り返し、申込み受領の返信メールをお送りします。

1 2. 参加費および納入方法

加盟校職員：30,000円、非加盟校職員 60,000円

受講許可後、所定の期日までに当財団の指定口座にお振り込みいただきます。

※ 一度納入された受講料は、研修開始後受講を辞退されても返金はいたしかねます。

1 3. 受講申込書送付および問合せ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 教育開発事業部（SD事業担当）

所在地：〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

TEL：075（353）9163

FAX：075（353）9101

e-mail：sd@consortium.or.jp

以上